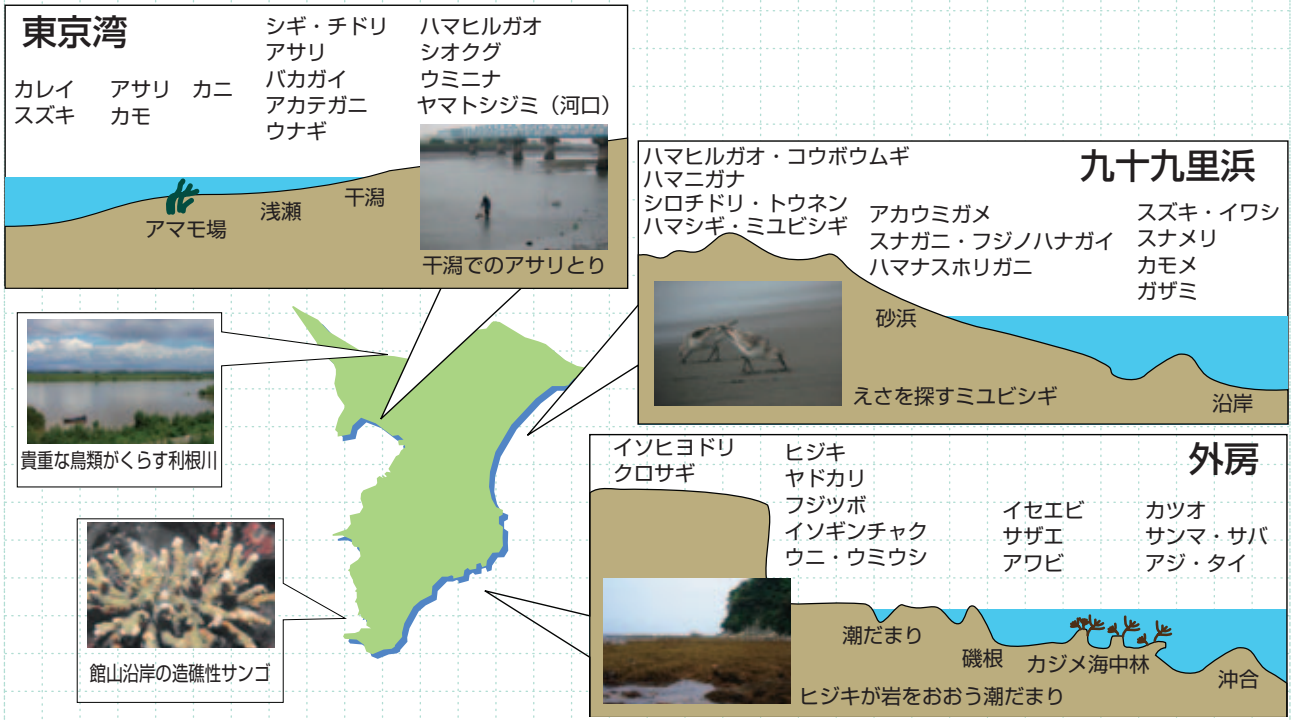
房総丘陵を代表する動物にニホンザルとニホンジカがいます。最近の調査では，どちらも数千頭が生息していることが分かっています。ニホンザルもニホンジカも植物を食べています。ニホンザルやニホンジカがくらせる房総丘陵は，とても豊かな自然だと言えるでしょう。そのほかにもタヌキ，アナグマ，テンなども生息しています。1960 年代にはニホンザルやニホンジカは，絶滅の危機にひんしていた時期もありましたが，現在はそのころと比べ個体数も増え，目にする機会もずっと増えました。

（3）里海の自然



千葉県は，まわりを川や海で囲まれています。北は利根川，南と東は太平洋，西は江戸川と東京湾です。東京湾では，干潟*や浅瀬*，アマモ場*が見られます。干潟では貝類がとれ，沿岸にはスズキなどの漁場もあり，古くから海の生物と人々の生活が深く結びついています。房総半島南端の館山付近では，熱帯の海にいるような造礁性サンゴ*も見られます。南房総では，山からの栄養は川へ，そして海へと流れ込み，岩場のカジメ海中林*をはぐくみ，多くの魚の隠れ家となっています。沖合では暖流（黒潮）と寒流（親潮）がぶつかり，多くの種類の魚がとれます。九十九里では江戸時代には大量にイワシがとれ，魚油*や肥料（干鰯*）として出荷されていました。

川と海はつながっています。山に降り注いだ雨が川を形成し，川の恵みが海の磯根*を形成し，それらが海の生物を育てています。里海の自然を守るためには，川の自然を守ることから始めると考えてもよいでしょう。多くの生物が生息する千葉県の里海の自然は，わたしたちのくらしとかかわっているのです。

＊用語解説）［干潟］海岸で潮がひいたときに現れる砂や泥の場所。［浅瀬］海の浅いところ。［アマモ場］海の中で，アマモの繁茂しているところ。
［造礁性サンゴ］サンゴ礁をつくるイシサンゴ類や石灰藻類。［磯根］波打ち際の磯から続く海底が岩になっている部分。
［カジメ海中林］海の中で，カジメが繁っているところ。［潮間帯］満潮時には海水が到達し，干潮時に陸が露出する線の間の場所。
［魚油］イワシ・ニシン・サバなどの魚をしぼって採った油。［干鰯］イワシを干した物で，畑の肥料に使われていた。